



土性は黒色の腐植に富んだ土壌で、畑土の如く物理性が豊かで、団粒構造を呈し、水湿は適潤、有効土層は1m以上であった。

樹勢調査では、葉数多く、濃緑で、枝数も多く、樹幹は垂直で、頂上枝の伸長はよい。

根の状態は調査出来なかったが、土壌条件が良好なので主根、側根共によく伸びていると思う。

補植したスギが植栽当初野兎の食害で根本立上り15cm位剥皮されたのが数本あったが、それ以外に病虫害に依る被害は認められない。

### 総合所見

日照、温度、水分、乾湿などの気候条件と土壌条件に恵まれ、然も植林の障害となるフジヤクスをつる性植物は排除され行き届いた管理が実施されている。

調査員全員が樹勢は旺盛で然も順調に生育しているので、将来有望な人工林と

して育つであろうという意見で一致した。

(文責 樹木医 関口義明)



## 名簿登録事項確認開始

### 予約申込みも同時受付

同窓会事業として五年毎に発行している会員名簿は、昭和二十四年創刊以来第十二版目を迎え、登録会員も六千十九名の大世帯となりました。

同窓会では、この名簿を、活動の基盤として位置付け、精度を高めて利用の拡大を図っているところですが、所在不明者も多く、その追跡に困難を極めているのが実情でもあります。

今回は、明年三月卒業の第51期会員と

四月の新人学生まで収録し、かつ、卒業期別名簿兼索引を増設して、一段と内容の充実を図りました。

早速、別掲「会員名簿(第十二版)出版頒布・登録事項確認要領」に従い作業を進めますので、会員各位の迅速なご協力と、ご予約ご講読くださいますようお願い申し上げます。

## 学園創立五十周年記念募金

三千二百四十二万円に  
五十年史刊行は六月以降か

同窓会活動として取り組んだ募金運動は、別表「集計表」の成果を収め、既に最終の時期ではありますが、学園五十周年記念事業実行委員会(実施主体)の最終報告に歩調を合わせることで合意が図られ、記念誌として三月末発行を予定した学園五十年史も、間もなく発刊されること了承された。

## 平成八・九年度会費納入依頼

納期・平成八年九月二十日

平成七年十一月三日開催の第二十二回大会決定に基づき、平成八・九年度会費の納入をお願いします。

同封の払込(取扱)票により、最寄りの郵便局に納入して下さるようお願い申し上げます。

そして今度こそ、健全財政確立の宿願が達成できるように、何方様も、納期内完納のご支援をお願い申し上げます。

本来、会費納入通知は、大会終了後、直ちにお願ひするところですが、記念募金との重複を避ける要請となりましたことをご理解ください。

### 納入不要に注意

終身会費納入者及び八・九年度会費既納者についても、会費納入用払込取扱票を、宛て名ラベルとして使用しますのでご了承ください。

### 通信欄利用説明

この場合、払込取扱票金額欄を、丸囲いで「納入不要」と表示しますので、ご注意ください。  
別掲「平成八・九年度会費納入者名簿(報告)」参照。

■払込人(会員)住所及び電話番号変更(修正)の場合は、宛て名欄を直接訂正してください。

■通信欄① 登録時当初の指名。改姓の場合は、その右横に、新氏名及び改姓年月日を記入する。

■通信欄② 勤務先名称。書き方は①に準ずる。退職の場合は、勤務先名を二線で消し、「無職」と表示する。



仮受金からの充当による納入者(再掲)

- 北海道⑬ 桑野美穂子
- 秋田県⑭ 松井 博文
- 福島県⑯ 坂内 洋一
- 〃⑰ 小泉 雄一
- 埼玉県⑱ 札木 久子
- 〃⑳ 玉谷なつ子
- 長野県㉑ 橋詰美穂子
- 石川県㉒ 山田 昭良
- 香川県㉓ 仙波 岩己
- 福岡県㉔ 佐野 治人
- 宮崎県㉕ 長友 光幸

以上の結果、平成八年五月二十五日現在の八・九年度会費納入者は、終身九九七名(累計・分納除く)及び現年度一六名、計一、〇一三名となり、当然ながら、今回は会費を納入する必要はありません。払込取扱票には、**納入不要**と表示してありますので、ご注意ください。

また、今回、終身会費で納入される方は、年度会費金額を一線で消し押印、終身会費納入区分表の金額を記入して払い込んでください。何方も、健全財政確立を目指してご理解、ご支援をお願い申し上げます。

終身会費納入区分表(平成8年4月から適用)

卒業期別	卒業年月別	金額(円)
1期~15期	昭21. 3 ~ 35. 3	22,500
16期~20期	昭36. 3 ~ 40. 3	25,000
21期~25期 通1~通5	昭41. 3 ~ 45. 3	27,500
26期~30期	昭46. 3 ~ 51. 3	30,000
31期~35期	昭52. 3 ~ 56. 3	32,500
36期~40期	昭57. 3 ~ 61. 3	35,000
41期~45期	昭62. 3 ~ 平3. 3	37,500
46期~50期	平4. 3 ~ 8. 3	40,000

支部・同期の動向

紙面の都合により記事省略、会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆派遣員、◆主なる会議内容の順に記載する。  
○数字は卒期、括弧数字は通信課程卒期である。

熊本県支部総会  
(不知火会)

- ◆平成八年二月二十八日(日)
- ◆熊本市上通り町一―五
- ◆焼肉友宝「なつのゆき」
- ◆支部長 高木 重成⑩
- ◆出席者 二十二名
- ◆会議内容 役員留任、会報第四号「不知火」編集の進捗状況報告
- ◆四月十五日発刊された「不知火」の概要

香川県支部総会

- ◆平成八年二月十日(土)
- ◆高松市 丸の内六―二五
- ◆日本たばこ産業(株)「玉藻会館」
- ◆支部長 寒川 秀男⑩
- ◆出席者 十三名
- ◆宮崎 薫④
- ◆和田 久雄④
- ◆津森 重邦④
- ◆寒川 秀男⑩
- ◆宮崎 岩美⑩
- ◆山上 仁⑩
- ◆川崎 武司⑱
- ◆派遣者 岩持 文彦⑦
- ◆事務局長
- ◆会議内容 支部長改選、記念事業等
- ◆学園近況報告

役員紹介

(支部長以外留任、役職、氏名、卒期、備考の順)

- 支部長 宮崎 岩美⑩(新任)
- 副支部長 川崎 武司⑱
- 監事 藤沢 巖⑳
- 事務局 山花 健㉑(会計)
- 林 道夫㉒



(イラストは㉒田畑義雄氏のデッサン)



【写真説明】

前列右から 下小園⑦、野上⑤、折田④、中迎⑬、石寺⑥、徳永③、平川⑮、今村①  
 中列右から 本田⑦、岩持⑦、深水⑬、有村⑭、湯川④、中野⑪、加治木⑨、祝迫⑥、中島⑧、熊田⑦、杉木⑦  
 後列右から 平谷⑩、中島⑦、高松⑫、福田⑫、重留②、上之園⑬、溝口⑬、川元⑭、宮下⑥、柳田⑬、平原⑩、桃木⑭

鹿児島県支部  
 (鹿児島県つくば会) 総会

- ◆平成八年二月十七日(日)
- ◆鹿児島市次郎一―九一七  
れすとらん ふぁみり庵
- ◆支部長 石寺 助夫⑥
- ◆出席者 三十名
- ◆派遣員 岩持 文彦⑦ 事務局長
- ◆会議内容 役員改選、つくば会名簿作成等経過及び記念事業等  
学園近況報告

新役員紹介  
 (役職、氏名、卒期の順)

- |          |        |
|----------|--------|
| 支部長      | 外西 俊行⑭ |
| 副支部長     | 平川 康興⑮ |
| 幹事       | 中迎紀代子⑬ |
| 〃        | 福田 文夫⑫ |
| 〃        | 有村 俊美⑭ |
| 地域連絡員    |        |
| 鹿児島市郡・大島 | 川元 昭司⑭ |
| 南薩・日置    | 桃木 重隆⑭ |
| 川薩・出水    | 下小園孝子⑦ |
| 蛤良・伊佐    | 本田 親弘⑦ |
| 曾於・肝属    | 中野 重雄⑪ |
| 熊毛       | 梶田 三丸⑧ |

支部長異動

- |          |        |             |      |
|----------|--------|-------------|------|
| 佐賀県支部長代行 | 原口 豊治⑧ | 平成七年十二月二十九日 | 副支部長 |
| 香川県支部長   | 宮崎 岩美⑩ | 平成八年二月十日    | 総会選任 |
| 鹿児島県支部長  | 外西 俊行⑭ | 平成八年二月十七日   | 総会選任 |

哀悼

- |        |        |             |
|--------|--------|-------------|
| 鹿児島県支部 | 下田 晃⑦  | 平成元年五月三十日   |
| 秋田県支部  | 佐々木次雄③ | 平成七年十月二十一日  |
| 佐賀県支部  | 小林 康則④ | 平成七年十二月二十九日 |
| 群馬県支部  | 吉沢 良三③ | 平成八年五月二十二日  |

会員名簿

「第十二版」出版頒布  
 登録事項調査確認要領

同窓会事業として出版する会員名簿は、通常、委託契約を締結して会員データの管理を依頼している。水戸市所在の「株式会社ワココンピュータサービス」との随時契約により委託調製するものである。

従って、登録事項が正しく入力されている場合、改めて調査する必要がないかと思われるが、精度向上を図るうえからも、会員全員の確認に寄せる期待が大きく、近く調査カードをお届けいたします。何方も後回しとせずに、必ず、ご回答ください。

また、予約申込みもお願いいたします。頒布価格は、前回に据え置きの方針ですが、製作部数が極端に少なくなると厳しいものがあります。全員、予約講読して旧交を温めるとともに、同窓会交流の拡大と発展を目指して、ご支援くださるようお願い申し上げます。

- 名簿仕様 B五判 約二六〇頁 料金 一頁 五万円
- 内容 前回とほぼ同じ 二分の一 三万円
- 卒業期別名簿兼索引の新設、会則及び平成八・九年度役員名簿並びに都道府県支部長名簿を掲載する。
- 頒布部数 発行部数 一、五〇〇冊
- 頒布価格 三、五〇〇円 (送料を含む)
- 広告募集



■調査カード発送 六月下旬

往復ハガキを使用する。

■調査事項のほか、広告募集、予約申込み欄を設ける。

■返信(報告) 期日 八月末日

報告内容集計の結果、必要に応じてカードによる調査を繰り返すほか、電話調査及び所在不明者追跡調査を併せて実施する。

■料金払込票発送 九月上旬

対象 予約申し込み者

名簿代金払込専用の郵便振替口座を開設する。

■データ締切り(最終) 平成九年 四月上旬

■名簿作成開始(印刷・製本) 五月下旬

■名簿完成(発送準備) 七月上旬

■名簿発送 七月中旬

対象 料金払込み者

### 新刊紹介・講読推奨

事務局長 岩持 文彦⑦

## 野菜・果物の流通と経済

—青果業者の役割と歴史— 阿部 功著

阿部 功④(群馬県支部長)が37年の体験基に出版

著者は、岩手県出身、本学四期卒業生。二年間畑作農場助手としてお礼奉公後、中央気象台を経て昭和三十二年に東京築地青果物に入社以来、セリ人を経験して昭和四十二年(株)群馬県総合食品卸売センターへ出向、平成六年定年退職するまでの毎日、青果物流通一筋に歩み、これからもその動向を考察し、見極めを狙っている。

本書は、著者が肌で感じ、思い、考えた青果物流通の毎日をもとめ上げたもので、全国中央市場青果卸売協会会長を努

める二瓶 博農民教育協会(鯉淵学園)理事長の序文に、「長年にわたりセリ人を経験、青果物流通の実務に携わり肌で感じた貴重な体験を基に需給と、価格変動と、旺盛な探究心をまとめた必見書」と賛辞されて流通業者や生産者のもとより、一般消費者にも愛読を奨められている力作であります。

読めば読むほど果物がおいしくなる書物です。是非、ご愛読ください。

## 野菜・果物の流通と経済

—青果業者の役割と歴史—

阿部 功



発行者

〒370 群馬県高崎市萩原町1400-30  
阿部経済研究所 阿部 功  
☎・FAX 0273-52-4961  
四六判・225頁 1,800円(税込)  
送料 300円(三部以上無料)

## 学園創立50周年記念事業募金報告

### 寄付応募者名簿

(平成七年十一月十六日〜八年五月二十日)  
二六名・五五万円

※名簿説明—敬称省略。分類方法は、応募口数及び金額別とする。○数字は卒期括弧は通信同。追加寄付は、当該期間の実績口数に分類、末尾括弧で累計口数を表示する。

例・九口寄付済者が一口追加の場合

◆一口 一万円

○○県 ①鯉淵太郎(累計一〇口)

間違い、不審の点は、必ずご連絡ください。

◆一口 一〇万円

◆五口 五万円(二名)

①U・S・A (一名) ⑧ 矢部 泰

⑨ 近藤 金一

◆三口 三万円(三名)

⑩ 佐藤 昭八

⑧ 薄網 久義

伊福 靖さん（和歌山農協食品技術顧問）

## 黄綬褒章を受章

伊福靖さんは、昭和二十一年四月に入  
学、食品加工を専攻され、昭和二十四年  
三月に卒業された（第四期生）。同年四  
月から、出身地の兵庫県、県立農業試験  
場農産加工科に勤務され、昭和三十六年  
七月まで園芸加工食品、発酵食品、畜産  
加工食品の試験研究・調査・指導に当ら  
れた。同年同月、和歌山県経済農業協同  
組合連合会の懇請で、同会和歌山工場に  
転じ、農産加工研究室長、技術本部長、  
和歌山県農産物加工研究所所長等の要職

を歴任されながら、数々の研究を発表さ  
れ、昭和五十二年三月には「温州ミカン  
果汁の製造と品質改善に関する研究」で、  
九州大学から農学博士の学位を授与され  
た。平成八年、春の叙勲・褒章で「つぶ  
つぶジュース、超高压による果汁の殺菌  
法の開発」などの功績により、科学技術  
庁の黄綬褒章を受けられた。本会報に紹  
介して深甚なる敬意を表し、共に祝福し  
たい。

西山 寿さん（福岡県大牟田市）

## 日本農業研究所賞を受賞

西山寿さんは、昭和二十一年四月に入  
学、昭和二十四年三月に卒業（第四期  
生）、同時に、郷里にある農林省佐賀改  
良実験所水稲育種部に勤務、昭和二十六  
年には農林省九州農試作物第一研究室  
（水稲育種）に、昭和五十年には、宮崎  
県総合農業試験場育種科（特別研究員兼  
育種科長）、昭和五十五年には、宮崎県  
農協中央会長推薦により、西日本文化賞  
（社会文化部門）を受賞されている。農  
林省を定年退職後、さらに平成七年三月  
まで福岡県農試で五年間水稲育種研究を  
続けてられ、今般、第十七回（平成七年  
度）日本農業研究所賞を受賞された。本  
賞は同研究所の表彰事業で、第一回が昭

和四十年。表彰は隔年に三件、賞金は  
一件百万円。真に農業の発展に多大な貢  
献を為した業績（原則として、国際的な  
賞、日本学士院賞などの権威ある大賞を  
うけた業績は、賞の対象から除外する）  
との補足説明からも、この賞の社会的権  
威が察せられるが、西山さんの全生涯を  
かけて育成されたミニミニシキ、コガネ  
マサリ、シンレイ、ニシキホマレ等々、  
良質で食味の良い優良新品種は、西日本  
稲作農業にはかり知れない貢献をされた。  
天賦の研究力と倦まず弛まずのご努力が  
栄えある受賞となったもので、ここに紹  
介し、改めて敬意と感謝の意を表したい。

## 満蒙開拓指導員養成所思い出の期（上）

二期四組 京都府 金子裕章

太平洋戦争のさなか、大東亜共栄圏建  
設の尖兵として満蒙開拓に挺身せんと、  
大志を抱いて故郷を後にしたのは弱冠十  
八歳の青春であった。  
あれから幾星霜、六十七歳の新春を迎  
え、「思い出の記」を綴るに当たりま  
とに感激深いものがある。

思えば、指導員養成所時代は実践を通  
じて学びとる旺盛な向学心、体力の限界  
に挑む自己錬磨、それに加えて苦しさを  
頭張り通すひたむきさがあった。清純で  
若い血潮のほどはしる鯉淵の足掛け四年  
間は、私の人生にとって一服の清涼剤で  
あり、人格形成に大きな影響を及ぼした  
と思っている。

思い出は、山ほどもありつきることは  
ないが、その中から二・三を拾ってみた  
い。

◇「いやさか」「駆け足」「打ち起こし」  
の基本訓練

満蒙開拓の指導者を養成するため、名  
称も開拓士官学校にすとかで訓練は相  
当厳しいと覚悟はしてはいたが、それは  
まさに言語に絶するものであった。昭和  
十九年一月、朝日のまだ昇りきらない幹  
部訓練所天地権現限作り大講堂前の大広  
場、冷え込んだ黒ボコ大地に霜柱が十糧  
も伸びて銀色に輝いている。朝礼に出る  
ため、びんびんと跳び歩いて自分  
の居場所に着くと、先ず足で直径三十糧

ばかり霜柱を押し退けるのである。こう  
しないと溶けた霜柱の冷たい水が地下足  
袋にしみ込んで我慢ならないのと、くっ  
つく泥の始末に困るのである。「おっば  
れーあなおもしろーあなたのしー・  
あなさやけーおけー」とやって、上着  
を脱ぎ折りたたんで「ひ・ふ・み・よ・  
と大極拳かダンスの様な「やまとば  
たらき」をやる。この頃になると日も昇  
り、左半身だけがようやく温かみを受け、  
太陽の恵みをしみじみと実感したもので  
ある。

次は駆け足である。とにかく早く走り  
だしたかった。筑波下ろしの身を切る寒  
風に、じっと身を曝しているのは耐えら  
れないのだ。隊伍を組み整然と歩調を併  
せて「いちに・いちに・」と走る。  
定期コースの、なむさんずけ・往復、こ  
れで体がやとと温まり自分の体に戻る。  
やがてほんのりと汗ばんでくるのであ  
った。駆け足訓練の総仕上げは、一月三十  
一日の水戸借楽園往復であった。

この頃になると、すっかり体も慣れて  
走る自信も身につく、あっさりと思しん  
で走りきった印象が残っている。

最近、台湾を旅行する機会があり、ガ  
イドの説明によると台湾軍の幹部教育で  
は、決まって毎日五千メートルの日本式  
駆け足を課していると言うことである。  
二年間の兵役教育で台湾の若者は協健な  
体力を身につけ、背筋が、シャン、と伸

びて見違えるほど立派な青年となるそうである。従って優良企業は兵役を終えた青年を競って採用すると言うことを聞いて、内原の開拓魂が振興目ざましい台湾において生き続けていようとは、思いも知らぬことであった。

毎日朝食をすませると急いで排泄、小休止の後今度は農場本部まで一期生に誘導されてお得意の駆け足である。

プラウもデスクハローも奮力用ものがあったが、開拓精神の注入練習にその目的があるものだから、午前も午後も毎日毎日入力打ち起こしてである。

大変驚いたのは、関西育ちの私にとつてあの大きな干びよう瓜のような形をした大変重い開墾鍬や、長い四つ瓜の曳打ち鍬など、見た事もなかったのである。小さな打ち鍬で、ちよこちよこ、と土を起す作業しかしていなかったたので、手の平はたちまち豆だらけ、肩腕はパンパンに張って脂肪が溜まり、やたらと疲れのばかりであった。

昨日も今日も明日も明後日も、日が昇り沈む限り打ち起こし作業は続けられた。さすがに、意気に燃え全国から集まった若者も、「勉強もさせないで、蒲飯に打ち起こしばかり・・・」と弱音を吐く者が出はじめ、空腹とホームシックのあまり病院通いが増えたり、「ソバキトク、スグカエレ」の電報が舞い込んだり、落伍する者も現れるようになった。

しかし、一日の作業を終え四列縦隊に整列、歩調を揃えて赤い夕日に長い影を引きながら、万世一系たぐいなき、すめら尊を仰ぎつつ・・・と前後段に分けて夕焼けの天空に向かい精いっぱい歌い

まくったあのとときの、胸の奥底から湧き出る不思議な感動は、一日の訓練を終えた歓びか、苦しい作業からの解放感なのか、そこには頬を伝わって流れ落ちる熱いものがあつた。

不撓不屈・物事に直面してやり遂げる自信・実践をとおして学ぶ行動力、これら内原精神の髄は、打ち起こしをとおして培われ、鍛えられたように思う。

◇氷の流れに飛び込む先生

一ヶ月間一心不乱に、必死の思いで基本訓練を何とか通過、やっと授業が始まり憧れの獣医畜産の勉強ができると思いきや、時あたかも戦局は急を告げ、食糧増産は国家の至上命令であった。

銃も剣もない農兵隊が勝田で湿田大排水灌漑工事を行っており、その援助指導に我々が駆り出されることとなった。作業は、幅員二メートル深さ一・五メートルの明渠排水溝を堀り、粗朶暗渠工事を接続して半湿田の二毛作化を図るものであつた。

肌を刺す筑波おろし横殴りに粉雪が舞う寒風の中、遮るもの一つ無いだっ広い水田に二条の縄を張り、二メートル間隔にみんなが並んでスコップで掘り進むのである。

一日の作業を終え次の日同じ場所に来るとそこには水が貯り水が張っている。地下足袋姿では作業にならない・・・。そのとき、無言で、バマツバマツとゲートルをはずしてスポンをまくり挙げ、真っ先に水を割って流れに飛び込んだのは、指導に当たっていた二瓶先生であつた。

後に続けと勇を鼓して入るのであるが、その冷たさと言うか痛さは例えようもない。流れる水の角が足首あたりに当たっても、もう何も分からぬ。掘り上げた土は堰堤となり農道とするのであるが、水をたっぷりと含んだ泥炭土は、一回では放り上げられない。一度中断して堰堤に揚げ、上の者が、ジョレンで引きならしをする三人一組のチームプレイである。中と上は氷水の中ではないが、身を切る寒風をまともに受けての作業だ。まさに上も地獄なら下も地獄であった。いま京都の街を、寒中修行のため素足で念仏を唱えながら托鉢して歩く修行僧の姿を身受けるが、勝田での訓練はこれにも劣らない厳しさであった。

あの時の「寒い！冷たい！痛い！重い」の感覚は、今も、私の身体の芯に染み着いて離れない。これを、現代の若者達にして知らしめようとしても、到底感受し得べくもなく理解し得ないことなのはなかるうか・・・。

◇体力と忍耐の極限を越えて

基本訓練と勝田の灌排水工事が終わってよいよ待望の学科が始まった。とは言っても午前中だけで、朝食前の駆け足・落葉掻き・宿舎建設用の丸太担ぎ、午後の厳しい農作業は毎日続いた。中でも激しかったのは、夏期を迎えての除草であつた。

これは夏期訓練とも言うか、雑草に埋もれた広いトウモロコシ畑に一列に並んで、梅雨明けの照りつける太陽の酷熱と、蒸し返す黒ボコの熱気の中で、流れ出る汗の手拭いを絞り絞り、四つん這い

になってひたすら雑草との格闘を演じるのである。汗と塵りで誰の顔も、土人のようにまっ黒になり黒ボコはふんどしの奥に逆達していた。

この除草期間は、一ヶ月を超える厳しさだ。授業は休止で、昨日も今日も明日も明後日も除草これ除草である。人間の体力と忍耐の極限を試すようなものであつた。私はなんとか無欠席で通したように思うが、疲労と暑さで食欲が低下、睡眠も充分取れず下痢を併発してひどく苦しんだ記憶が残っている。一人一人、五人六人と出席者は減って行き、最後には三分の一位になっていた。それでも私はやり通すことが出来たが、その心境は、細い黒縁の丸い眼鏡を掛けた浅野先生を目標に置いていたからである。「先生がやる限り俺もついて行く」只それだけであつた。

振り返ってみると、欲も得もない、考えもしない馬鹿げた片意地を張った行動であつたのかも知れないが、やはり、いちづな気持ちでやればできる」と言う自分に対する自信を掴みとった事と、一心不乱と言う無我の境地を悟ったような気がしている。六十七歳の年輪を重ねた今でも、悩みごとに苦しみ仕事に疲れたときなど、私はふと庭に降り立って一本々々と草を引く、不思議と心静まるものを覚え安らぎを感じてくる。私は草取りがこよなく好きである。(つづく)

※ 本稿は、平成六年七月に寄せられましたが、記念行事関連記事先行で遅くなりましたことをお詫びいたします。上・中・下に別けて掲載します。